

新 消防長・消防団長 ご紹介

宇和島地区広域事務組合消防本部 消防長 ^{いじり みつあき}井尻 光明



この度、4月1日付けをもちまして、宇和島地区広域事務組合消防長を拝命いたしました井尻光明です。
今後、発生が危惧される南海トラフ巨大地震や複雑多様化する災害に対応していくために、消防職員の能力向上に努めるとともに、消防団をはじめとする関係機関との連携を更に強化し、地域防災力の向上に取り組む所存でございます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

松山市消防局 局長 ^{むらお なおと}村尾 尚登



この度、4月1日付で、松山市消防局長を拝命しました村尾尚登です。
大規模な被害が想定されている南海トラフ巨大地震に対応するため、消防団をはじめ、関係機関との連携を強化し、地域防災力の向上に努めて参りますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

伊予消防等事務組合消防本部 消防長 ^{つしお ともや}対尾 知也



令和5年4月1日付けをもちまして、伊予消防等事務組合消防本部消防長を拝命しました対尾知也です。
近年の複雑多様化・激化する災害から、地域住民の皆様生命、身体、財産を守るという消防の使命を達成するために、消防団をはじめとした各防災機関との連携強化を図り、安心安全な地域づくりを目指して、更なる地域防災力の向上に努めてまいり所存でございます。今後とも、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今治市消防本部 消防長 ^{しらishi かつし}白石 勝志



この度、4月1日付で、今治市消防長を拝命しました白石勝志です。
アフターコロナに世の中が動き出す中、気を緩めることなく消防救急事案に的確に対応していくとともに、頻発化、激化する自然災害、発生が危惧される南海トラフ巨大地震等に対応するため、消防職団員が一致団結し、住民の生命・身体・財産を守る消防使命達成に向け誠心誠意努力していく所存でございますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

西予市消防本部 消防長 ^{うつのみや けんじ}宇都宮 憲治



この度、4月1日付をもちまして西予市消防本部消防長を拝命しました宇都宮憲治です。
近年、全国各地で地震や集中豪雨などの自然災害が発生し、甚大な被害をもたらしている中、住民の生命、身体及び財産を守る消防の責務の重さを痛感しております。
今後とも災害に強い町づくりを目指し、職員及び団員、関係機関と連携を取りながら職務に精励し、最善を尽くす所存でございます。今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

四国中央市消防本部 消防長 ^{うちだ ひとし}内田 斉



この度、4月1日付で四国中央市消防長に就任いたしましたことは、伝統ある組織を担う重責を痛感いたしますと共に大変、身の引き締まる思いであります。
誰もが安心して暮らせる社会を確保していくため、消防団や、自主防災組織並びに各関係機関と連携を図りながら、市民の皆様方から全幅の信頼を頂けるよう全力で消防行政を推進してまいり所存でございますので、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶といたします。

上島町消防本部 消防長 ^{こばやし としのり}小林 俊則



4月1日付で、消防長を拝命し、重責を感じると共に身の引き締まる思いです。
近年、複雑・多様化している災害形態に対応していくために、消防団・自主防災組織・関係機関との連携強化を図り、より一層の地域防災力の向上に努めてまいりますので、今後とも、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

東温市消防本部 消防長 ^{はしもと たけし}橋本 武



この度、4月1日付けをもちまして、東温市消防本部消防長を拝命しました橋本武です。
近年の災害は、大規模化、激甚化、頻発化しており消防に寄せる期待が高まっております。住民の生命、身体及び財産を守るため、消防団、関係機関との連携を深め、地域防災力の向上に努めてまいります。
今後とも、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

伊予市消防団 団長 ^{おがさわら たかお}小笠原 貴雄



この度、令和5年4月1日付けをもちまして、伊予市消防団長を命ぜられました小笠原貴雄でございます。
近年の複雑多様化する各種災害から消防団の役割・任務は一層重要となり、市民の期待は益々高まっております。
この期待に応えるべく、地域防災の要であることを自覚し、地域の安心・安全を守るよう消防団の活性化に努めて参る所存であります。今後とも、関係各位のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

砥部町消防団 団長 ^{まつなが ひさとみ}松永 久富



この度、4月1日付で砥部町消防団長に就任いたしました。
消防団は、地域防災の要であるため住民から期待されており、団員の役割は益々重要になっております。「地域住民の生命・身体・財産を守る」という消防団の使命を念頭に置き、「安全で安心なまちづくり」を目指し、団員一人ひとりが防災意識を高め、関係機関と連携強化を図りながら、住民に信頼される消防団づくりを進めて参りますので、今後ともご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

伊方町消防団 団長 ^{おかだ かずや}岡田 和也



この度、4月1日付けをもちまして、伊方町消防団長を拝命しました岡田和也です。
「自分たちの地域は自分たちで守る」という消防団精神のもと、常備消防、自主防災組織との連携を密にし、地域住民の皆様への負託に応えるため、団員一丸となって邁進して参ります。関係機関の皆様には、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



発行人
公益財団法人 愛媛県消防協会
松山市築山町1番35号
電話(921)8517番
会長 大西 浩司
一部53円

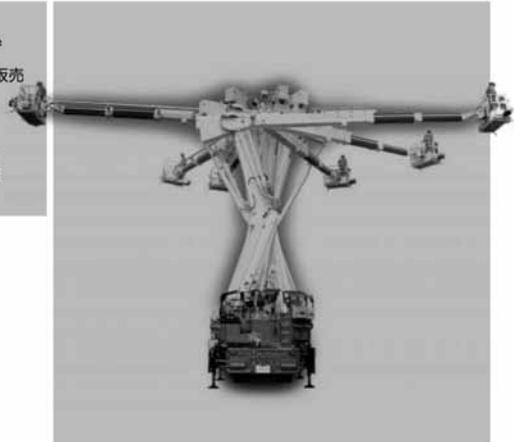
二〇二三年度全国統一防火標語
火を消して 不安を消して
つなぐ未来

株式会社 新日本ライフテック

http://www.sn-lf.com

消防防災設備 / 給排水設備 設計・施工・保守
各種消防ポンプ車 / 救急車 / 高度医療機器 販売
防災用品 / 各種消防設備 販売

日本機械工業 ヤマトプロテック
株式会社代理店 株式会社代理店



南予営業所
〒796-0201 愛媛県八幡浜市保内町川之石1-237-130
tel.0894-36-3322 fax.0894-36-3323

本社
〒790-0054 愛媛県松山市空港通2丁目18番32号
tel.089-908-5766 fax.089-908-5767

第49回消防団幹部特別研修に参加して



西条市消防団 団長 高橋 公一

令和5年1月17日から1月20日まで、東京都において開催された「第49回消防団幹部特別研修」では、全国の都道府県から42名の正副団長が出席し、4日間の研修が行われました。例年であれば、日本消防会館での開催となるのですが、会館は、令和6年5月末の完成に向け改築工事中であり、また、新型コロナウイルスにおける感染者数も減少傾向にありましたが、感染防止のための取り組みは継続されており、全員が一堂に会することはできませんでしたが、まだまだ制約もある研修となりました。

今回の研修は、日本消防協会の秋本会長の講話に始まり、行政機関や大学、民間機関などの有識者による講話を中心に、総務省消防庁や東京消防庁での視察研修、研修生が班に分かれて課題について討議を進める課題研究により構成されていきました。

講義は、災害対策や危機管理、火災防ぎよ、消防行政についてなど多岐にわたりましたが、「状況予測型図上訓練」について学んだ危機管理演習と熊本市消防団の山口団長による熊本地震における消防団活動事例報告については、特に印象に残るものとなりました。

熊本市消防団の活動報告では、自分であればと考えることで、多くの課題を確認することができました。大規模災害においては、予期せぬ事態や想定を超える事態が往々にして発生します。このような事態に際しては、事前計画において、基本的な方針と対処方法とともに、緊急時における協議の手順や枠組みを定め、迅速な意思決定が可能な体制を構築する必要があります。また、災害時における活動記録についても、大変重要なことだと思います。後世に残すことはもちろんですが、刻々と変化する状況に対して部隊を指揮統制し本部へ必要な情報を報告するためには、分団レベルでの情報管理が必須となると考えます。

熊本市消防団では避難所支援として、所在・安否確認調査や運営支援、炊き出し、心のケア、ブルーシート設置、車両誘導、給水活動などの活動を実施しています。避難所運営の主体は、自治会や自治体職員となると思いますが、今後は、避難所運営を含めた災害対応について、役割分担などを自治会等と協議する必要があると感じました。

4日間という限られた時間ではありましたが、消防、防災、行政、惨事ストレス対策など、消防団活動に必要な様々な知識を学ぶとともに、全国各地の消防団幹部のみならずと交流を図ることができ、今後に繋がる有意義な研修となりました。今後は、この貴重な経験を幹部団員はもとより若手団員にまで広げ、地域防災力の一層の向上に努めたいと思います。



女性消防団だより

22年目のスタートへ



松山市消防団女性分団 分団長 石丸 博美

この3年間猛威を振るった新型コロナウイルス感染症が落ち着いて、ようやく日常を取り戻しつつありますが当初は消防団活動全休が中止になり、先が見えない不安を抱えながら、顔を合わせることもできない中、どうすれば消防団員としてのモチベーションを保つことができるのか、悩みながら過ごしていました。

毎年各部が担当を持ち回りで実施していた、団員同士の交流を深めるレクリエーション企画も集まることのできないので、活動時に役立つフェイスシールドや避難セットを配布して防災意識を高め、情報発信に女団だよりを発行して団員同士の絆が途切れないように工夫しました。

そしてようやく令和4年度には縮小しながらではありますが、以前の研修や活動を実施することができました。5月には部長と班長が集まり幹部会を開催して、久しぶりの再会に笑顔が溢れました。

6月には全団員に呼びかけて規律訓練等の教育訓練会。6月末の松山市操法大会では進行や受付案内・記録等の任務分担をみんなで協力して活動しました。10月には松山市総合防災訓練で、応急手当実施訓練や、支援物資搬送訓練に参加しました。

松山市女性分団では、発足当初から全員が応急手当指導員の資格を取得することを目標として、月に一度の救急講習会で救命士さんから指導方法のスキルを学ぶ講習会に参加したり、各部で研修を重ねたりしています。令和4年度は新たに3人の団員が資格を取得して、現在84名が応急手当指導員として活動しています。

今では女性団員だけで実施している講習会も増えて、令和4年度は45回実施しました。今後は経験の浅い団員の育成が重点目標です。

毎年実施している活動とは別に、さらに団員同士の絆を深めようと新しく二つの活動を企画しました。

一つは、松山市で初めて女性団員が採用されてから20年という記念の年でもあったの

で、お祝いのキャンドルという思いと、停電や災害時にも灯を照らす癒しのキャンドルという二つの意味を込めて、好きな花等を入れてひとつひとつ手作りしました。久しぶりに顔を合わせて会話も楽しみながら交流もできました。

もう一つは、団員の提案から実現した「消防について家族で学ぼう!女性消防団員のための消防研修会」を開催しました。家族にも消防団員の活動を理解してもらい、応援してもらおう!という思いから企画がスタートしました。団員からスタッフを募り何度も打ち合わせを重ねて、担当の吉村さんをはじめ大勢の職員さんのご協力のおかげで、女性団員・家族・大学生団員が参加して、通常では立ち入ることができない通信指令室での緊迫したやり取り、子供たちはもちろん団員も真剣に聞き入り、子供や資格を見学したり、業務を終えて帰ってきた救急車内の説明を受けたり、煙体験や水消火器体験、119番通報体験をとおり、国民の生命と財産を守る消防の業務や成り立ちを深く理解することができました。同時に私達消防団員もそういう大切な活動に携わっているのだという誇りや自覚を再認識することができました。

この研修会で準備段階から団員同士が交流して絆が深まり、参加した家族からも「お母さんすごいね!」と褒めてもらって嬉しかったという声が聞けました。令和5年度は夏休みに開催して、さらにたくさんの方に参加してもらいたいと思います。

お世話になってる全てのみなさんに感謝して、22年目の新たなスタートを、全員でさらなるステップアップを目指して活動していきたいと思っています。



機関紙「えひめ消防」1月号に係るお詫び

1月25日に発行の「全国女性消防団員活性化徳島大会に参加して」に寄稿いただいた松山市消防団 加藤千晶さんの階級が「団長」となっておりましたが、正しくは「部長」でした。訂正してお詫び申し上げます。

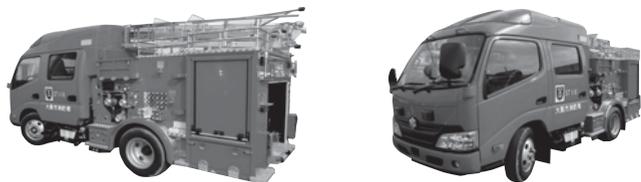


祝 松山市消防団女性団員20年記念

2022年 レクリエーション

<http://www.ogawa-pump.co.jp>

OGAWA 仕様 消防ポンプ自動車(Made In 愛媛)



豊富な収納力が1台2役分の活躍を。

多くの資機材を積み込みながらも、初期消火に力を発揮する水槽を搭載。コンパクトにまとめあげたCD-I

小川ポンプ工業株式会社

愛媛支社

〒790-0045 松山市余戸中6丁目9番52号
TEL: 089-972-2392 FAX: 089-972-2400
E-mail: ehime@ogawa-pump.co.jp

扱いやすさと
タフな空冷エンジンを採用

空冷式消防ポンプ
FT500
B-2級

FT450
B-3級



Fi(電子制御燃料噴射)に間接水冷ラジエータを搭載

水冷Fi式消防ポンプ
FF500ZXi
B-2級

FF450ZXi
B-3級



操法で活躍!

SHIBAURA
信頼と実績のキャブレタシリーズ

水冷式消防ポンプ
FK500 B-2級
FK450 B-3級
FK400 B-3級



シバウラ消防ポンプ愛媛県総代理店
(有)愛媛芝浦ポンプ商会
TEL.089-933-6355 FAX.089-933-9550
〒790-0911 松山市桑原2丁目3番19号

一般住民の防災活動等



西条市消防団玉津分団
部長 加藤 拓

西条市少年消防クラブは、現在、市内小学校25校全てにおいて発足しており、約530人のクラブ員が活動しています。少年消防クラブの目的は、防火・防災の知識を身につけるためであることは言うまでもありませんが、私はクラブ活動を通してそれ以外のプラスαの部分も大切ではないかと考えております。このプラスαの部分は何かを説明する前に、まずは我が、玉津少年消防クラブの活動内容をご紹介します。

玉津少年消防クラブの1年間における主な活動は、春の入団式に始まり、夏には屋外で防災学習&バーベキュー、秋には少年消防クラブ大会とその後の打ち上げ、冬には年末年始特別火災予防運動週間にクラブ員が車両のマイク広報を実施した後、消防団蔵置所でお菓子やジュースを片手に、我々団員と地元のお菓子やジュースを片手に、我々団員と地元の消防団活動の話や、クラブ員達のたわいのない話に大笑いしながら同目線で盛り上がりつつあります。そして、春に涙の卒団式となります。

こうして1年間のクラブ活動をまとめてみると、クラブ員と地域の消防団員が交流を深めることがクラブ活動の大きな目的であり、これが前述のプラスαの部分です。クラブ員が防火・防災を通じて地域と関わりをもち、違う年齢層の仲間との交流経験をもつ機会となり、人間形成や地域社会への参加の面でも大きな意味があると思います。少年消防クラブで培ってきた交流が、将来の地域防災の担い手である消防団員への確保に繋がっているものと考えています。

現在、日本では将来における人口減少社会が、大きな問題となっております。この問題は、消防団員の確保においても無視することができないものです。全国のほとんどの地域で、消防団員の確保対策に向け知恵を絞っていると思われ、消防クラブという種まき



消防クラブと消防団員が、消防団員として将来に花を咲かせ実を結ぶことに期待し、今後も少年消防クラブ指導員として邁進していく所存です。

日本消防協会車両交付

公益財団法人愛媛県消防協会の推薦により、日本消防協会、全日本消防人共済会から八幡浜市消防団に「消防団学習・災害活動車Ⅱ」が交付されました。この車両は地域の防災力強化のために交付されたもので、平時においては防災学習用資機材を積み込んで地域の防災学習のために使用し、災害時には緊急車両として消火・救助資機材などの運搬や現場活動で活躍することを期待しています。今後も、地域防災力の充実強化と消防団活動のためにこの車両を有効に活用させていただきます。



新・事務局長紹介



事務局長
楠本 員三

この度、ご縁を頂き、当消防協会事務局長に就任いたしました。消防団員の皆様方におかれましては、生業を持ちながら、地域防災のために粉砕砕身、日頃からご尽力くださり、心から感謝申し上げます。

さて、近年、社会情勢の変化に伴い、消防を取り巻く環境は、過去に類を見ないスピードで変化しており、当協会の社会的責任や存在価値は、ますます重要となっております。少子化に伴う人口減少により、県内の消防団員数は減少の一途をたどり、2万人を切りました。また、価値観の多様化に伴う若い世代の消防団離れなど、消防団員の確保対策は喫緊の課題です。さらに、発生が危惧される南海トラフ巨大地震、集中豪雨やゲリラ豪雨による土砂災害や浸水被害などの複合的災害の発生など、あげれば切りがないのですが、愛媛消防を取り巻く環境は、年々、厳しいものとなっております。

県民の安心・安全を守るため、常備・非常備、市町の区別はありますが、それらを超え、分け隔て無く、県下の消防職団員が一丸となって、これらの問題を解決していく姿勢が大切であると考えております。消防機関は、消火活動のみならず、大規模地震や特殊災害などのさまざまな危機に対応できるような体制を構築することが求められており、県民の生命・身体・財産を守り、安心・安全で暮らして行ける、住み良い町作りを行うには、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に努めることと、自治会や自主防災組織、婦人防火クラブなど、横のつながりを密にし、地域総合防災力の強化に取り組みむことが重要であります。いろいろ述べましたが、当協会の運営におきましては、皆様方のお力をお借りしながら努めて参りたいと思っておりますので、どうぞ、よろしくお願ひいたします。最後に、火事場で汚れた顔を手ぬぐいで拭き、汚れた法被を裏返しに着て、何事もなかったように振る舞う、江戸の町火消しのよう

支部だより

大洲市消防団 「水防活動における装備品の充実について」



大洲市消防団
団長 矢野 正祥

平成30年の7月豪雨により、大洲市、西予市は甚大な被害を受けました。この災害を受け、現在、国と県が令和5年度の完成を目指し、「大洲川河川激甚災害対策特別事業」による堤防の新築・嵩上げ工事を進めているところであります。

この工事が完成し、堤防が整備されれば、大雨時にはこれまで以上に河川の水位が上がることになり、また、大洲川本流の水位が上がることで、内水による浸水被害等が起ることも想定され、さらには大洲川に合流する内子町を流れる小田川もこれに伴い水位が上昇し、氾濫する危険性が増すこととなります。このような状況のなか、水防活動を行わなければならない団員の装備は決して十分なものではなく、ライフジャケットや雨衣、夜間作業に必要なヘッドライトや投光器など、団員の命を守る装備品の整備は喫緊の課題であることから、令和4年7月に長谷川衆議院議員、大洲市・喜多郡選出の愛媛県議会議員、大洲河川国事事務所、そして大洲川流域に位置する大洲市、西予市、内子町の消防団の幹部が集まり、水防活動における装備品の充実について意見交換を行いました。

また、令和5年1月には愛媛県消防協会南予支部主催で「水防に関する研修会」を実施し、全国水防管理団体連合会の事務局長及び河川情報センター高松センター 所長にもご参加いただき各消防団の水防活動における現状と課題等について意見を交わしました。消防団活動・水防活動において団員の安全確保は最も優先すべき事項です。消防団の装備品(ライフジャケット、雨衣、投光器等)の整備については、総務省消防庁の「消防団救助能力向上資機材緊急整備事業」も活用でき、補助率が1/3で地方負担分2/3に特別交付税が措置されるものの、財政状況の厳しい市町の負担を更に軽減し、装備品の整備について予算措置をしていただくよう今後も大洲川流域の大洲市、西予市、内子町の消防団が連携をとり、県や国に補助の拡充等を求め、団員が安全・安心に活動できるよう水防活動における装備品について整備していきたいと考えております。



H30.7月豪雨活動写真



R5.1 水防に関する研修会

災害に強いまちづくりをお手伝いします

家庭用からプロ仕様まで 消防・防災の専門商社

- ◎消防ポンプ自動車
- ◎消防ホース
- ◎防災・救助機器
- ◎避難用品
- ◎小型動力ポンプ
- ◎消防被服
- ◎消火器・消火装置
- ◎自主防災・企業防災用品



人と地球のいのちを守る MORITA 消防ポンプ自動車No.1メーカー



新基準活動服 新基準による消防団員活動服



SHIBaura 消防ポンプ・防災機器 シバウラ可搬消防ポンプ



ジェットホース 操法大会最適ホース コンペVシリーズ

(株)岩本商会 〒790-0067 松山市大手町1丁目10番地1

Tel.089(947)2111 Fax.089(947)2116 高松支店/宇和島営業所/姫原倉庫 http://www.iwamotosyokai.co.jp

- 点検・報告・整備・工事
 - 消防用設備等・特殊消防用設備等
 - 防火対象物点検・防災管理点検
 - 防火設備点検
 - 連結送水管の配管耐圧試験
 - 消防用ホース耐圧試験

- 消防用機器等の販売
 - 各種消火器
 - 住宅用火災警報器
 - その他各種防災用品
 - 消防ポンプ自動車

～高度な技術で安心をお届けする～



株式会社 四国消防

〒790-0952 松山市朝生田町1丁目7番21号
電話 (089)934-4800
FAX (089)934-5533
E-mail : yons@ss4800.jp

第22回消防団幹部候補中央特別研修に参加して



四国中央市消防団 班長 村上友則

私が消防団幹部候補研修での3日間で、特に印象に残った研修内容を報告したいと思います。危機管理についての講義の1問に「大災害が起きた時に自分が消防団員としてどのように行動することが良いのか」という議題がありました。私は、愛媛県内で南海トラフ地震が発生したと仮定し、自分が消防団員として地域住民のためにどのような行動ができるだろうかと考えてみました。

上記の議題を考える上で、講師からある負荷を与えられました。それは、「自分の階級より上の者は連絡が取れない」という状況でした。上席と連絡が取れないということは、自分自身で物事を判断し、自ら責任を負うという厳しい状況下で、私は「一部の仲間と連絡をとり、詰所で通行が不可能な場所などを防災マップへ書き込み、一度待機する」という判断を選択しました。

講師から今回の質問に対する答えに正解はないという前提として、「家族がいる人は、家族の安全を優先する方が好ましい」との見解を述べました。その理由としては、「家族が安全かどうかはわからない状態で活動しても不安な状態が続き、その団員の能力が最大限発揮できなくなるのではないか」とのことでした。その見解を聞いて、大災害が起きた時に自分が団員として取る行動としては正解であったのかもしれないが、家族の安全を最優先にするという考えはなかったため、まだまだ自分は視野が狭く浅はかであったと考えさせられました。

今はまだ班長という階級ですが、階級が上がるにつれ自分の能力だけではなく、緊急時に団員への負担を軽減できるように考えなければならぬし、自分の身の周りの大切な人を守ることも最優先に考えなければならぬため、いつ災害が起きても迅速に対応できるように、今自分にあるポテンシャルを發揮していくことが大切であり、広い視野を持つことが必要だと認識するよい研修でした。貴重な経験をさせていただき心から感謝いたします。



西予市消防団 団員 井上裕也

令和5年2月1日から2月3日までの3日間、東京都港区で開催された第22回消防団幹部候補中央特別研修に参加させていただきました。全国津々浦々から世代や肩書も違う110名を超える参加者が集まり研修を受講しました。研修内容は講師による座学講義とグループ討論を行いました。

座学講義では日本消防協会秋本会長の講話から始まり、消防庁地域防災室長・千葉県館山市消防団長・東京理科大学火災科学研究所教授の方々と消防防災に精通されている方々から色んな角度から講義いただきました。その中で危機管理演習として震度6強の地震を想定した図上訓練を行いました。自分自身の認識の甘さを痛感しました。消防団員として防災意識は人並み以上あるかと思っていざしましたが、震度6強の地震がどの程度であるか全く想定できていませんでした。「敵を知り、己を知らば百戦危うからず」という言葉がありますが、まずは百戦危うからず災害の状況を考えることが必要であると感じました。

グループ討論では消防団が抱える課題の1つ「若年層の団員確保対策について」3日間討論し、最終日に発表及び講評をいただきました。私達のグループでは団員確保対策として①入団しない若者の意見を聞いてみる②活動の負担を減らす③子育て支援などをメリットを増やすといった意見が出ました。討論を行っていたことで、各消防団で苦労されていることが工分していることを共有できたことも参加者の熱い気持ちで討論できたことで、地元での消防団活動をより一層頑張ろうという気持ちになりました。

3日間という短い期間でしたが、とても充実した研修でした。日常の消防団活動では考えられなかったことができたこと、思いもつかなかったことを今回の研修で学ぶことができたこと、各都道府県の消防団員と交流できたことは貴重な経験で大変ありがたく感じています。今後南海トラフ地震が必ず起きると言われています。今回の研修で学んだこと・経験したことを、西予市消防団の充実と発展に努めていきたいと思えます。最後に、この研修に参加させていただき関係者のみなさま本当にありがとうございました。



久万高原町消防団 団員 佐伯香奈

2月15日から17日まで、第22回消防団幹部候補中央特別研修に参加させていただきました。緊張の中での開校式、写真撮影後の、日本消防協会秋本会長の講話の時には、「いよいよ研修が始まった!」と思いつつ、熊本地震においては「災害関連死」が多かったことを知りました。地震の時は助かった命が、後の避難所生活での負担やストレス等が原因で亡くなった方がいたということにショックを受けました。避難所は男性目線での設営が中心となっており、女性が積極的に意見を出さないといけない、私たち女性消防団員が積極的に動かないといけないと思いました。

研修のメインとなる「グループ討議」での私の班の課題は「女性消防団員の役割について」でした。まず「今、何が問題なのか」を話ししました。下の者の声が上がらないこと、女性では無理との偏見で男女の壁があること、日本消防協会などからの情報(女性も現場活動を!)が来ないことがあげられました。次に、それを解決する対策を考えました。現場を知り知識をつけるための努力を続けること、状況が変わらないと諦めず女性の声を上げ続けること、横のつながりを活用して模索すること等意見を出しました。これらの意見を持ち帰り、粘り強く声を上げ続けることで、何かしらの変化があることを心から願っています。

新型コロナウイルス感染症防止のため交流会が出来ず、参加されたみなさんとお話するチャンスがありませんでしたが、班長さんたちの提案によりLINEで繋がることになりました。活動報告のメッセージを受け取るたびに「みんな、頑張っているなあ、私も頑張らなきゃ」と思います。この出会い、繋がりを守る活動が続けたいと思います。今回、研修会に参加させていただきありがとうございました。関係者の皆様も大変お世話になりました。



松前町消防団 団員 足立智恵

この度、令和5年2月15日から17日迄の3日間、研修に参加させていただきました。全国から総勢76名が参加し、10班に分かれ課題研究を行い、私の班の課題は、「女性消防団員の確保対策」でした。

私の所属する松前町消防団でも、女性消防団員の確保は常に課題であり、ピラやボスター配り、町の広報誌へ掲載と色々行ってきましたが、結局身近な人や身内への勧誘という形で現在に至っています。他の消防団では、どういう活動をしているのかを知ってもらうために、防災訓練や救命講習等の参加時にPRを行う。中でも市内電車一面に女性消防団員の制服姿をラッピングしているところもありました。

また、3日間様々な分野の専門的な講義を受講していくうちに、子供の頃から自分の身を守る教育や、共に助け合うボランティア精神を養う事も重要だという意見も出ました。私がこの研修で一番心に残っているのは、「在日米海軍消防隊で危機管理の遠い目覚め学んだこと」と題して、RISKWATER顧問の長谷川祐子講師のアメリカはテキサスのボランティア消防士のお話です。彼は週の内4日を警察官として、残りの3日はボランティア消防士として働いています。本当に無給なのかと聞いた時、「僕は普通の人がなかなかない消防士になった。人の命を救い、財産を守る仕事だ。尊い仕事に就けたということが僕の誇りで、お金は問題ではないよ。」その言葉に胸を打たれたそうです。

最後にこの研修で、全国の女性消防団員の方々と交流し、共に研修できたことは貴重な経験であり財産となりました。全国で頑張る仲間には負けないよう私も消防団としての誇りを持って、活動や団員確保に取り組みしていきたいと思っています。



最強コンピ

ポンプ操法

トーハツ VCPROIII

キンバイスーパーランナーホース

株式会社 ヤマダ 1910年創業

TOHATSU 小型消防ポンプVFシリーズ 電子制御 燃料噴射装置

株式会社 吉谷機械製作所 消防ポンプ自動車 化学消防自動車

テイセン テイセン救助工作車 キンバイ消防ホース

YAMATO ROTEL ヤマトプロテック 粉末(ABC) 消火器

〒790-0062 松山市南江戸1丁目2番26号
TEL: (089) 947-2295 | FAX: (089) 945-3976 | www.yamada-pump.co.jp